

インドネシアのジャカルタで開催中の第18回アジア大会に社会人選抜で臨む野球(26日～9月1日)の日本代表としてJ R西日本(広島市)の田村強選手(24)

＝玉野市出身＝が出場する。中国地方のチームからは唯一の選出。右の大砲に24年ぶりとなる優勝への期待がかかる。(村上達也)

24年ぶりVへ期待の大砲

■ 26日からアジア大会野球 ■



右の大砲として期待される田村選手。広島市のJ R西日本グラウンド

玉中から玉野高、大体大を経て入りも責任の重さを強く感じる」。社3年目。7月の都市対抗で2年連続8強入りした強豪で1年目から4番に座る長打力と勝負強さを買われ、24人の枠に選ばれた。初の国際大会に「日の丸を背負ううれしさよ」

初の国際大会「一步も引かない」

パワーなど走攻守全ての面で違っていた。自身も目指すプロとの差を痛感した。

顔ぶれが大きく変わったチームで臨むアジア大会は「一皮むけるチャンス」(J R西日本の花本輝雄監督)だ。181cm、84kg。この1年で体の厚みは増し、長打力に磨きがかかった。大会では本職の遊撃ではなく、三塁での起用となりそうだが「大事な場面でチームを勢いづける大きな当たりを打ちたい」と打撃でけん引する。

大会は4チームずつ2組に分かれて予選リーグを行い、各組上位2チームが決勝トーナメントに進む。1994年以来、優勝から遠ざかる日本。プロで固める韓国、台湾が大きな壁として立ちほだか。韓国には兵役免除を懸けた選手もいるという。命懸けで向かってくる相手に一步も引くつもりはない。がむしゃらに金メダルだけを狙っていく。